

「上を向いて咲く」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 78 回生の部活動に思うこと

先月末に校長室を彩ってくれた花は心惹かれるものでした。『花材はニューサイラン、スカシユリ、ソリダゴです。最近急に暑くなってきましたね。今回は緑をふんだんに使った爽やかなものとなっています。日々の疲れや暑さを癒してくれそうです』という華道部からのメッセージが添えてあります。確かに緑が多く、涼しげな姿です。

まず目を引くのはニューサイランのすらっと大きく伸びた葉の姿でしょうか。その奥でスカシユリが鮮やかな花卉を誇っています。ユリの多くは下向きに咲きますが、スカシユリは上向きに咲くのが大きな特徴とのこと。花言葉のひとつに、「注目を浴びる」というものがあります。この花姿が所以なのでしょう。納得のいく華やかさです。

さて、同じ時期に注目を集めてくれたのは水泳部です。県総体という大舞台で、菱川瑛吾くんが男子 200m バタフライで第2位、廣田七海さんが女子 100m 平泳ぎ、200m 平泳ぎともに第5位入賞ということで兩名揃って近畿大会出場を決めたのです。しかし、顧問の井上先生の感動ポイントはその結果だけではありません。折り返しでは7位と苦戦していた菱川くんが後半巻き返して順位をあげたこと。そして…『そんな頑張りを支えたのは紛れもなく水泳部のみんなの応援する姿だと思います。特に3年生は全力で応援してくれました。その姿がとても感動的でしたし、競技後そのことにお礼を伝えるふたりの姿も感動的でした』

応援と言えば、3学年の学年通信『鵬雛』のなかの福田先生の文章もとても印象的なものでした。『陸上の県総体がユニバー記念競技場で開催された。3年5組の福武が走高跳で5位に入賞し、近畿大会の出場権を獲得した。その福武のサポートを一番熱心にやっていたのは、県大会に出場できなかった3年2組の平田だった。一生懸命チームメイトの応援をし、積極的に大会運営の手伝いをするようになった。あと一步のところで県大会に出場できなかった平田だったが、部活動を通じて彼は確かに成長したのだと感じた』

平田くんの応援する姿勢は3年間の成長の象徴そのものだったのですね。部活動の顧問をしていて、そんな成長に立ち会えること以上の喜びはありません。平田くんは福田先生のご指導に最高の恩返しをしましたね。

こうして3年生がひとりふたりと部活動の表舞台を去っていきます。先月末には弦楽部3年生の最後のステージを見せていただきました。第17回定期演奏会、会場の灘区民ホールには本校の先生方をはじめ、多くの観客が集まりました。日頃の取り組みに加え、丁寧にチラシを配ってまわった成果ですね。

全体は4部構成。どの演奏も心惹かれるものでしたが、第Ⅰ部では私が昔から大好きな『カノン』と、入部もない1年生を含めた部員全員で演奏してくれた『メヌエット』、第Ⅱ部ではピチカートをふんだんに取り入れた『忘れじの言の葉』が特に印象的でした。



また、第Ⅳ部ではOBの先輩方とともに演奏してくれました。OBのなかに私の仲間もいます。世代を超えた演奏は奥行きを感じられる重厚なもので、あわせて私の仲間の凛とした表情と、中央でチェロを弾く方の趣ある表情があまりに素敵すぎて、目が一時も離せなかった私です。

ラストは3年生10人が揃って登場、思いのこもった最後の演奏を聴かせてくれました。先輩方から繋いでもらった思いを、後輩に繋ぐような時間。真摯に取り組んできた日々がひとつのカたちになりましたね。達成感に満ちた彼女たちの立ち姿はスカシユリを思わせました。これから上を向いて咲けますように。

